

ホタテガイ養殖管理情報

稚貝分散は、水温が23℃を下回ってから開始してください

1 海況

9月15日時点の陸奥湾の中層（10～15m層）の日平均水温は図1、2のとおりです。

中層の水温はほとんどの地区で23℃台となっており、8月中旬以降は水温がほぼ平年並みに推移しています（図1）。

2 稚貝の状況について

9月11日に久栗坂・川内実験漁場の稚貝を調査しました。測定結果は表1に示したとおりです。

へい死率は久栗坂実験漁場で1.8%、川内実験漁場で1.2%と、過去10年の平均値（西湾平均11.2%、東湾平均9.0%）よりも低い値となっています。

平均殻長は久栗坂実験漁場で15.2mm、川内実験漁場で13.9mmと、過去10年の平均値（西湾平均19.7mm、東湾平均17.5mm）よりも小さいサイズとなっています。

3 稚貝分散について

- 分散作業は、水温が23℃を下回ってから開始するようにしてください。
- 1段当りの収容枚数が多いと異常貝が増え、へい死につながるので、適正な収容枚数（1段当り15枚）を心がけて作業してください。
- 潮流によるぶつかり合いで、外套膜（ヒモ）が傷ついてへい死しないように、ネットにはオモリをつけましょう。また、潮流が速い場合は、作業を控えましょう。
- 作業終了後は波浪によるぶつかり合いを防ぐために、施設を浮かせずぎないようにしましょう。

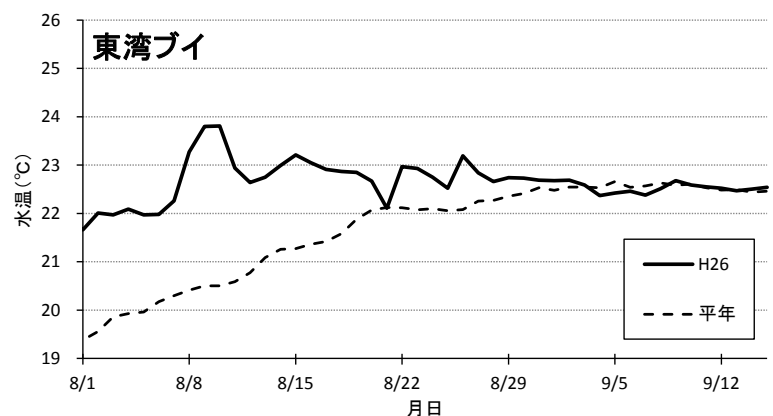
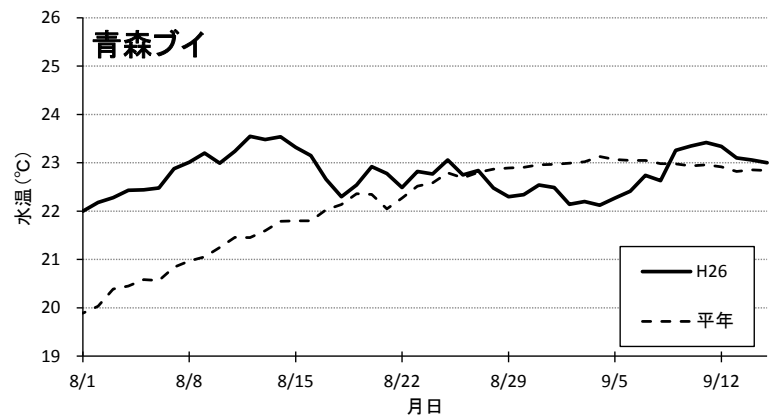
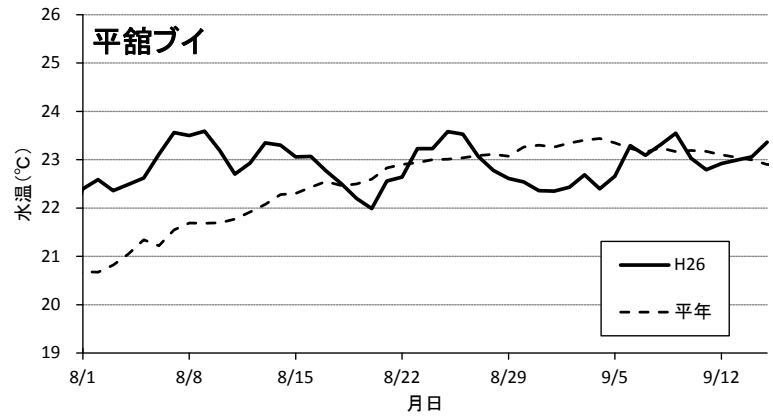


図1 海況自動観測ブイでの15m層の日平均水温の変化

4 新貝の養殖管理について

新貝の体力の回復は稚貝よりも遅いため、中層の水温が20℃を下回るまで玉付け・籠換え・掃除といった作業は控えてください。中層の水温が20℃を下回るのは、10月中旬以降になる見込みです。

ただし、水温が23℃台まで低下してきているので、海底に籠や耳吊りが着底している場合は玉付けを行っても構いません。

5 その他

水温は地区によって異なるので、作業の前には必ず陸奥湾海況情報や海ナビ@あおり（下記URL、QRコード）で水温を確認してください。

表1 現在の稚貝の状況

調査場所	久栗坂実験漁場	川内実験漁場
調査月日	9月11日	9月11日
垂下水深(m)	31	26
稚貝採取時期	8月8日	8月21日
採苗時の篩の目合(分)	2	1.8
1段当りの収容枚数(枚)	55	83
死貝数(枚/段)	1	1
へい死率(%)	1.8	1.2
平均殻長(mm)	15.2	13.9



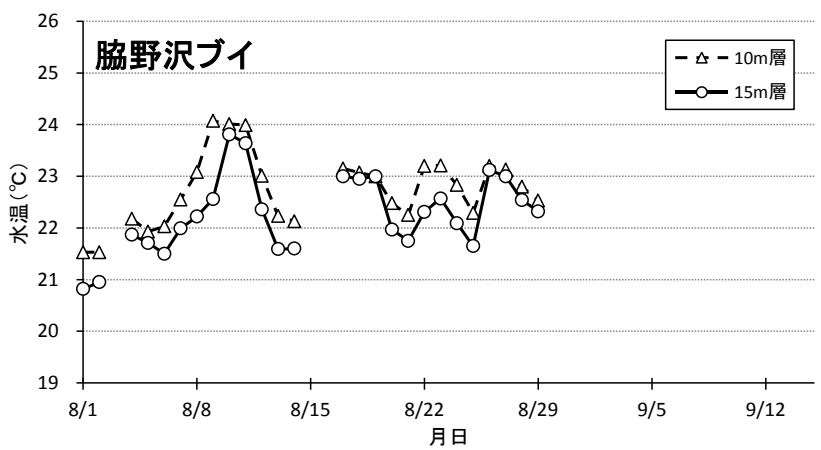
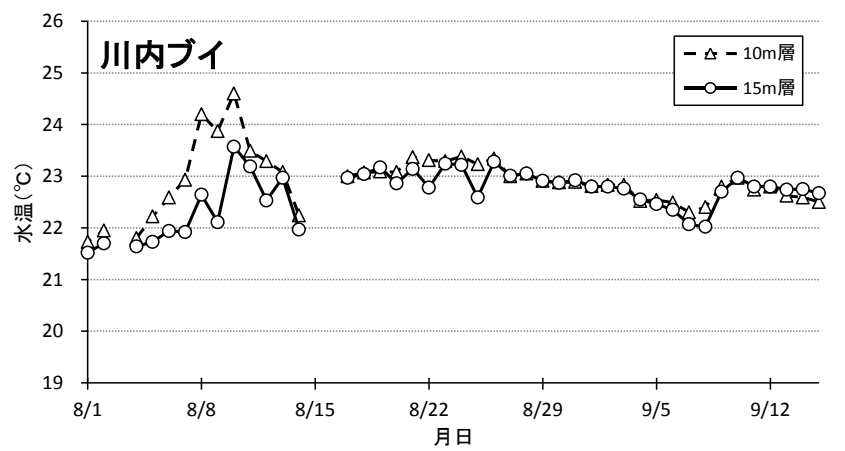
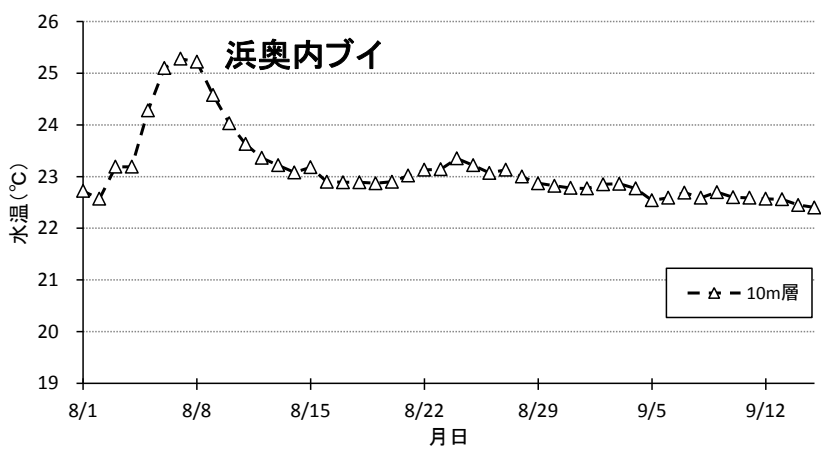
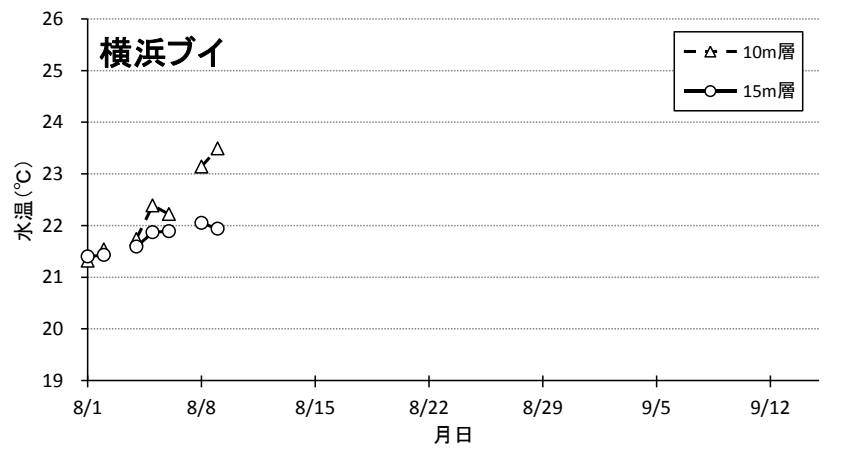
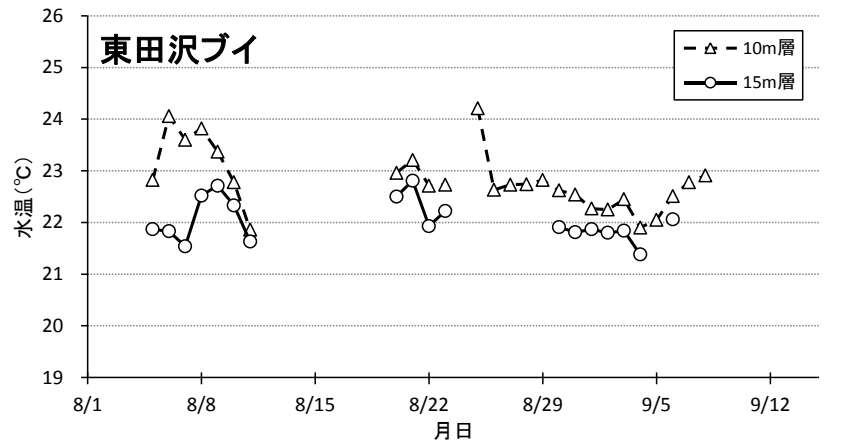
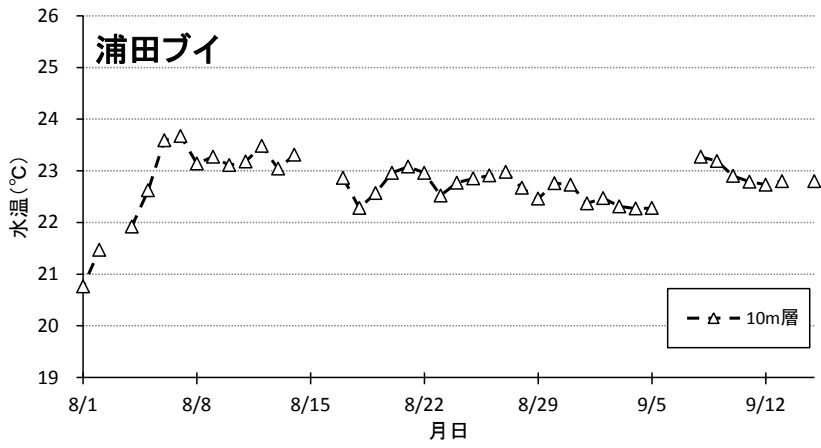
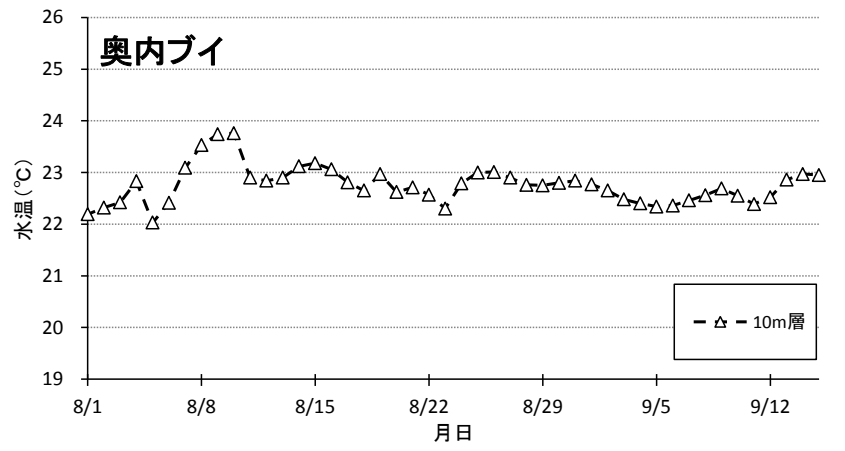
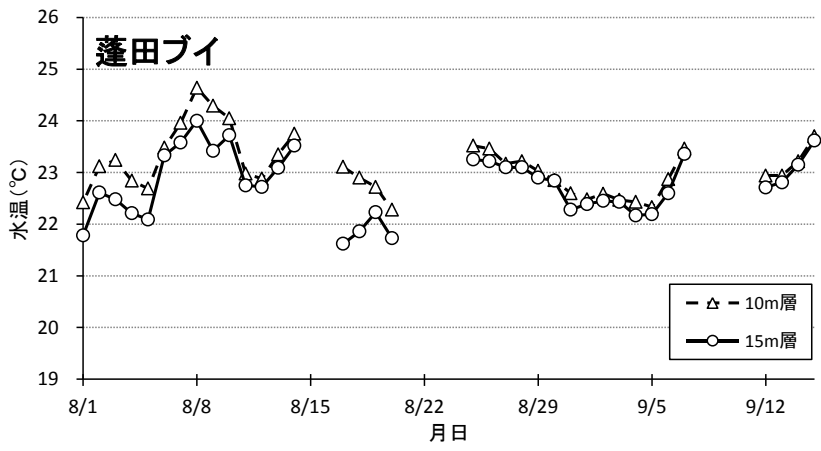


図2 水温観測ブイでの中層(10~15m層)の日平均水温の変化